

批評家ローレンス・アロウェイにおけるポップ・アート概念の変遷

牛渡 理沙

本論文の目的は、批評家ローレンス・アロウェイにおけるポップ・アート概念を詳らかにすることである。ポップ・アートは、代表的なアメリカ美術とされているが、1950年代のイギリスで発生し、その後1960年代にアメリカで発展した美術運動である。「ポップ・アート」という用語は、イギリス生まれで後にアメリカで活躍したキュレーターであり批評家でもあるローレンス・アロウェイによって生み出されたと今日多くの先行研究においていわれている。しかし、後にアロウェイ本人が、当初用い始めた「ポップ・アート」は、その後の「ポップ・アート」が意味するものとは異なると述べていた。そこで本論文は、「ポップ・アート」という用語を生んだとされる批評家ローレンス・アロウェイを取り上げ、彼の「ポップ・アート」論を明らかにし、後に世界的に受容されるポップ・アートへの影響を考察した。

まず一章では、一般的なポップ・アートの諸説を比較し、ポップ・アートが「大量消費主義と大衆文化のイメージを基にする」という点とこの名称は「ローレンス・アロウェイが使い始めた」とする諸説に共通の定義を確認した。

このように定義されるポップ・アートであるが、前述のように当初アロウェイによって用いられた「ポップ・アート」はこの定義とは異なっていた。当時のアロウェイが「ポップ・アート」という用語に込めた意味はどのようなものであったのかという点について、二章と三章で考察した。その結果、アロウェイが当初用いた「ポップ・アート」は、今日のポップ・アートとは差異のあるものであった。当初その用語は、新聞や雑誌、映画、漫画などの産業やマス・メディアの発達に付随して起こった大衆文化そのものを指す語であった。しかしその後、アロウェイ自身の認識も徐々に変化を遂げ、「新聞や雑誌、映画、漫画等の大衆文化を引用した美術」を指すようになっていったという事実を詳らかにすることができた。

またアロウェイの認識は、現在ネオダダあるいはポップ・アートの先駆とみなされるジョーンズ及びラウシェンバーグが抽象的表現を用いてアメリカの大衆的テーマを描いた作品と、ポップ・アートの作家の作品を共通のものと見なすものであった。この認識から彼らを並列して提示したことによって、結果的にポップ・アートの特徴が明らかにされることとなった。

つまり、アロウェイは、アメリカのナショナリスティックな感情を刺激し、ポップ・アートの差異化を生んだということができる。このように、いわばアロウェイの認識がポップ・アートを確立させたというという新たな意義付けを行うことができた。